

## 概要

### 【研究背景】

ワセリンは塗布することで皮膚の保湿機能を維持することや、外的刺激から皮膚を保護することが知られている<sup>1)</sup>。また、他の薬剤とも比較し安価であることから病院内でも保湿ケアや創傷の治療のために広く用いられている。現在一般的にスキンケアは個々の看護師判断にてワセリンを塗布している現状にあると考える。先行研究ではワセリンは様々な軟膏の基剤となっており、皮膚への安全性が証明されている。しかし、ワセリン単体での保湿効果に対する先行研究はまだない。

### 【研究目的】

ワセリン塗布後の皮膚保湿度の変化を把握する。

### 【研究方法】

1. 対象者:A病院病棟看護部職員38名(実態調査)  
A病院看護部職員43名(介入調査)
2. 研究期間:2013年7月~9月
3. 使用物品:ワセリン 水分測定器  
モバイルスキンモイスチャーHP10-N 株式会社インテグラル
4. 方法
  - 1) 職員への実態調査(アンケート調査)
  - 2) ワセリンの保湿度の検討(介入調査)  
前腕内側部に市販の石鹸で洗浄後無塗布の状態  
で計測。2.5cm×2.5cmの範囲に右前腕に1g、左前腕に2gを8時に塗布。塗布後2時間、4時間、6時間、8時間後に測定を行った。
5. 倫理的配慮  
対象者については研究の目的と方法についての説明を行い文書にて承諾を得た。研究以外では公表せず個人を特定できない表記で発表を行う。

### 【結果】

1. 実態調査(アンケート)  
・結果からワセリンの塗布する間隔や量や基準には個人差があった。
2. 介入調査  
・ワセリン1g、ワセリン2g塗布した群では、全体

量で有意差がみられなかった。(p>0.05)

- ・38歳以上の群では6時間値については38歳以下の群に比し有意に皮膚水分量が高かった。(p<0.05)
- ・ワセリン塗布に伴う不快感が全ての被験者において聞かれた。またワセリン1gより2gの方がより不快感があったと全ての被験者に聞かれた。

### 【考察】

ワセリンの塗布する量が1gでも2gでも皮膚の保湿度に有意差がみられなかったため、ワセリンの塗布する量は多くなくてもよいと考える。38歳以上の群ではワセリン塗布後6時間後において有意にワセリン2gが1gに比し皮膚保湿度が高かった。田上は加齢に伴い皮膚機能の低下や水分量が減少することを示唆している<sup>2)</sup>。実際に入院している患者は高齢者が多く、ワセリンの量によってワセリン塗布後の皮膚保湿度に違いがあることが予測される。対象者からワセリン塗布に伴う不快感の感想があったことや1g、2gの皮膚保湿度に有意差がみられなかったため過度のワセリンを塗布する必要はないと考える。ワセリン1gを6時間毎に塗布することが皮膚保湿効果を維持できるのではないかと示唆された。

今回の介入研究では日常看護業務を行っている職員であり、安静を保持出来ていなかったため、結果に影響が出た可能性がある。実施時期も夏季であり、乾燥しやすい冬季に行うと結果に影響が出る可能性がある。

### 【結論】

ワセリン1gを6時間毎に塗布することが皮膚保湿効果を維持できることが示唆された。

### 【引用参考文献】

- 1) 使用感を改善した新規ワセリン軟膏製剤の比較試験 臨床医薬23巻9号(9月)2007 富永直樹
- 2) 老人皮膚のかゆみ—その仕組みと対処法について— アンチエイジング医学日本抗加齢医学雑誌 Vol.12. 31 田上八郎